

# 労働災害訓練

## ○目的○

労働災害発生時に適切な行動が出来るよう、  
事前訓練を行う。

## ○手順○

行動確認フローに沿った行動が出来ているか確認。  
怪我の応急処置が適切か確認。

## ○成果、改善点、問題点○

### ・成果

災害発生時、被災者、周囲への指示が的確にされていた。  
怪我の応急処置、救急車要請まで素早く実施出来ていた。  
何を優先すべきか各員が少ない指示で最善の行動をしていた。

### ・問題点

作業管理責任者へ連絡したが、打合せ中との事で、  
それ以降(安全衛生管理者、社長、役員、部長)止まってしまった。  
報連相は受ける側も、する側も適切に対応する必要あり。

### ・課題

ある程度事故の形は予測ができると思うので (KY等を参考にすると良い)  
必要な救急セットは現場に据え置くのが望ましい。  
二次感染防止として、応急処置を施す人達は手袋にて保護をした方が良い。  
怪我をした際、手当の仕方について人によって大きな差が出る事が予測される。  
誰もが目につく場所に手当の仕方を準備すると良い。 (ラミネートシート準備実施)

(1) 行動フロー

- 1) 状況の確認 … ■ 負傷者有り □ 負傷者無し
- 2) 負傷者の確認 … ■ 意識有り □ 意識無し
- 3) 負傷者への質問 … ■ 負傷箇所・痛み □ 事故状況 □ 動けるか？  
負傷状況の確認 … ■ 外傷、出血
- 4) 二次災害防止措置 … □ 作業の中止 □ 稼働機器停止(電源OFF) □ 作業者の退避
- 5) 負傷者救護 … ■ 移動可能 □ 移動不可能
- 6) 安全な場所へ移動する … □ 移動させ安静 ■ 応急処置 (傷口洗浄・消毒・止血)
- 7) 病院への搬送 … ■ 緊急性有り □ 緊急性無し
- 8) 自社運搬 … □ 可能 ■ 不可能
- 9) 救急車要請 … ■ 救急連絡 119番 (※1) □ 関係者同乗
- 10) 救急連絡 … ■ 緊急連絡体制に基づいた連絡  
→ ①作業管理責任者 (森課長) ②安全衛生責任者 (中田KT) ③部長・役員  
④社長 (社長への連絡は安全衛生管理者からでも良い) ⑤負傷者家族
- 11) 現場保存 … □ 事故現場の保存 □ 第三者の立ち入り禁止 ■ 現場記録
- 12) 事故報告 … □ 「災害・事故報告書」の作成 □ 所属課長へ提出



- 1 『119番』にダイヤル
- 2 『救急です！』と第一声 (火事ですか？救急ですか？)
- 3 次に『住所』、『目印』を
- 4 負傷者の『様子』を説明  
→ 5W1H、容態、年齢、性別など
- 5 通報者の『氏名』、『電話番号』を
- 6 サイレン音接近。救急車を『誘導』
- 7 救急隊『到着』  
→ 行った応急手当、持病が分かれば報告



- 応急処置の基本
- ① 周囲状況の確認
- ② 二次感染防止 (血液や体液による二次感染)  
→ 手袋や眼鏡で保護
- ③ 患者の状態確認 (意識や出血の確認)
- ④ 患者への声掛け (体に触れ反応の確認)
- ⑤ 救急車を要請 (救急車の呼び方参照)
- ⑥ 可能な限りの応急手当

~ 出血時の応急措置 ~

- ① 傷口を洗浄する。
- ② 傷の状況を確認する。(切り傷の場合)
- ③ 止血処置を行う。
- ◎ 直接圧迫止血法
  - ・ 滅菌ガーゼなどで傷口を強く圧迫し、可能であれば傷口を心臓より高い位置に保つ。
  - ・ 状態を確認しながら5分程度止血する。
- ◎ 間接圧迫止血法
  - ・ 直接圧迫できない場合は傷口より心臓に近い止血点を強く圧迫する。
- ※ 止血点は右図参照



# 労働災害訓練風景

日時：2020年8月19日

場所：ワーク棟

作業内容：加工作業

労働災害訓練内容：グラインダーで指を切傷



労働災害発生場所



災害発生後、負傷者の状況確認、応急救護の実施。



救急車を要請。作業管理責任者へ報告等。

訓練終了後、良かった点、問題点、改善点等の報告。